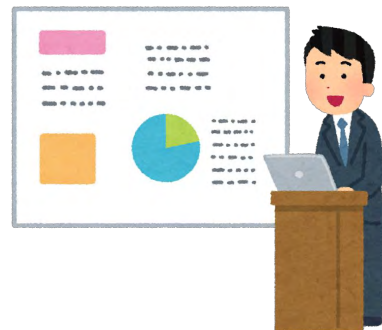


実践編

職業系高校における言語活動の実践

All Aboard! English Communication II
Lesson 1 “A Colorful Island”を題材に



兵庫県立尼崎工業高等学校 扇園尚孝
英語授業研究学会関西支部運営委員

oogizono1986@hyogo-c.ed.jp

自己紹介

- **扇菌尚孝（おおぎぞの なおたか）**
- 私立近畿大学文芸学部文学科英語英米文専攻言語コミュニケーションコース
（現・国際学部）卒業（2004年～2008年）
→樋口忠彦先生のお世話になりました
- 国立兵庫教育大学大学院学校教育研究科言語系コース卒業
（2008年4月～2010年3月）
→故・山岡俊比古先生の下でSLAの研究をしました
- 2013年より兵庫県で正規採用 2024年で12年目
- 現在は兵庫県立尼崎工業高等学校に所属。
- 令和6年度教科主任 総務部（人権担当）

前半のお品書き

1. 学校・学年の概要紹介
2. 授業実践の紹介

生徒の発表があったスライドは原稿を載せています

1. 学校・学年の概要紹介



生徒の学校紹介ビデオ（2年生2学期に作成）

I'm going to talk about the charm of Amagasaki Tech High School.

I have no regrets about the admission to this high school.

The reason is that you can learn a lot of different things from other schools.

For example, welding! Rare! It is rare to use fire in classrooms in other schools.

I have liked arts and crafts. So, it's perfect for me.

Finally, club activity is fun.

Please come to the badminton club. Thank you for listening.



兵庫県立尼崎工業高等学校の紹介

- JR尼崎駅の近くにある工業高校
- 創立80周年を超える伝統校
 - ダウンタウンの松本人志の母校
 - (株)キーエンス創業者、滝崎武光の母校
- 各学年5クラス→3年間でクラス替えなし
機械科A、機械科B、建築科、電気科、電子科
MA MB A E Ec
- 大多数の生徒は地元の企業に就職する
 - 大学進学率は5%程 総合選抜入試が中心



英語の教育課程

- 1年は**3単位**の英語コミュニケーションⅠのみ
- 2年と3年は英語コミュニケーションⅡを分割履修
→ 4単位を2単位ずつで行う（2年の英語授業は週2時間のみ）
- 論理・表現Ⅰ（2単位）は3年生で選択科目として履修
→ **1年生では高校の新規文法事項は出てこない**
- 高校の新規事項は英語コミュニケーションⅡで登場する

良いところもたくさん

- 男子が大多数。元気がよくパワーがある。
- 実技科目が多いので、実技的な要素には食いつきやすい
→音読・コミュニケーション活動も喜んで取り組む
- 人懐っこい生徒が多い
→企業からは「良い意味で緩い、話しやすい」と評判
- 座学ばかりにせず、短い時間で様々な活動を入れている



第2学年のクラス編成

- 5クラス合計190名 1学期は出席番号の前半・後半でクラスを分割
- 扇菌・再任用教師・非常勤講師の3名で分担する

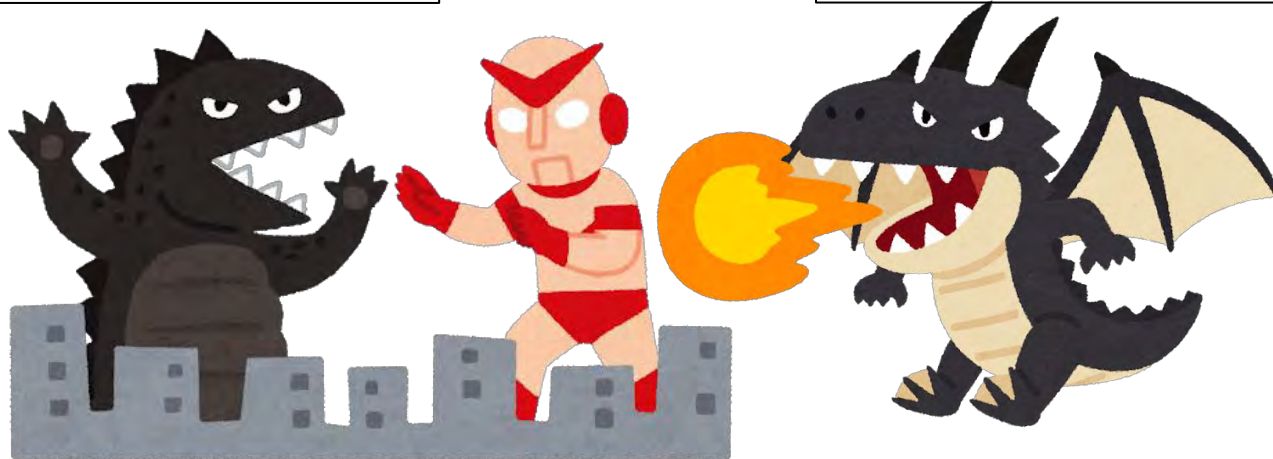
機械科		建築科	電気科	電子科
MA	MB	A	E	Ec
前半 再任用担当	前半 再任用担当	前半 非常勤担当	前半 再任用担当	前半 再任用担当
後半 扇菌担当	後半 扇菌担当	後半 扇菌担当	後半 扇菌担当	後半 扇菌担当

今回の授業実践は建築科（A）の後半を記録

2. 授業実践の紹介

It takes (costs)構文

関係代名詞のwhat



言語活動（タスク）の定義について

- TBLTにおけるTaskには、いろいろな定義や要素があり複雑なものです
- 今回の発表では「自分の気持ちや考えを、英語で話したり書いたりして表現すること」と定義します。
- 複雑な要素を持つTaskとの違いを分かりやすくするため、「言語活動（タスク）」と表記します

Goalとなる言語活動「旅行プランの提案」

Step 3 Preparation for Presentation

<状況>

あなたは旅行会社の営業担当です。

+

<場面>

尼崎工業高校生に、あなたがおすすめる場所（国内でも海外でもよい）を修学旅行の企画として提案することになりました。

+

<目的>

パワーポイントのスライドを1枚使い、あなたの考える旅行プランを提案しましょう。ただし、「行くのにかかる時間」、「費用」、「そこでできること」を Lesson 1 で習った文法事項を上手に使って説明してください。制限時間は2分です。

**新出事項の関係代名詞what、It takes 人 時間 to do構文を使う
言語活動（タスク）を設定しました**

生徒の発表を見てみましょう① (Ec男子)

- I want to suggest Shiretoko Peninsula.
- It takes us 16 hours to go there.
- It costs us 50000 yen to go there.
- What we can do is to see a beautiful scenery.

peninsula:
半島

生徒の発表を見てみましょう② (Ec男子)

- I want to suggest Okinawa.
- It takes us 2 hours to go there.
- It costs us 26000 yen to go there.
- What we can do is to eat local cuisine.

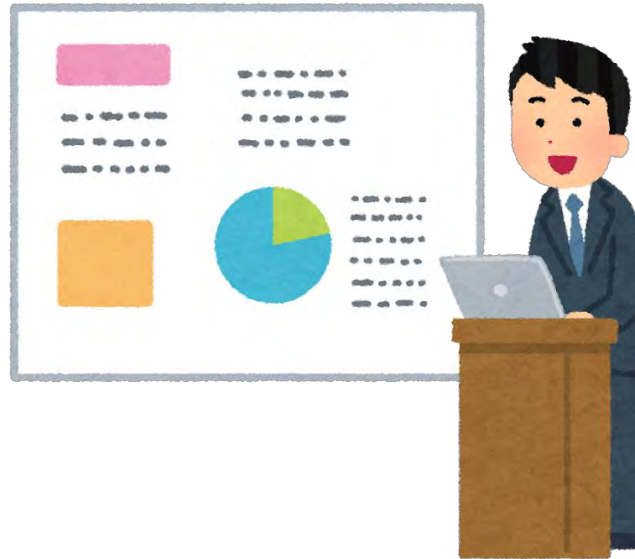
local cuisine:
郷土料理

生徒の発表を見てみましょう③ (Ec男子)

- I want to suggest Kanagawa.
- It takes us 2 hours to go there.
- It costs us 30000 yen to go there.
- What we can do is Kamakura sightseeing.

今回の発表は、生徒たちが発表を行えるよう、どのように指導したかを
実際の授業ビデオを交えて、ご覧いただきます。

Slow Learnerが多くても、「**練習**」と「**適切な支援**」で、**発表が可能になります。**



授業の概要と時間数

- 使用教科書： *All Aboard! English Communication II* (東京書籍)
- 対象単元： Lesson 1 “A Colorful Island”
- 対象生徒： 第2学年
- 中心記録クラス： A (建築科) 後半
- 記録授業： 1 学期後半のA後半の授業 9 時間分すべて
- 各クラスの持ち時間

MA	MB	A	E	Ec
8時間	8時間	8時間	10時間	10時間

→6/1に警報のため、MA・MB・Aの授業が1時間減。もとは9時間

単元の構成方法について

- 単元を1つの大きなまとまりと考え言語活動をGoalに設定し、「**逆算**」して個々の授業を設計した。
→中嶋洋一先生のBackward Planning
- 今回は**高校の新規文法事項の「二正面作戦」**
→先に文法事項の確認を「Grammar・構文導入シート」で行った。（日本語で指導）
→もちろん、初回の1時間では定着しないので、単元を通じて練習し定着を図る
- **Presentation→Practice→Production (PPP) 型**を大きくしたものに

PPPの構成図 **練習を大きくする**

1 時間目	Grammar・構文導入シート	Presentation
2 時間目	Oral Introduction Part 1 本文確認① + 音読	<u>Practice</u>
3 時間目	Part 1 本文確認② + 音読 Target Sentenceの練習	
4 時間目	Part 2 本文確認① + 音読	
5 時間目	Part 2 本文確認 + 音読 Target Sentenceの練習	
6 時間目	Listening Activity 原稿準備・スライド作成	
7 時間目	発表 (Goal)	
8 時間目	発表 (Goal) ・フィードバック	

1 時間での完結は難しいです

- 各単元を 3 段階に分けました
- 先にGoalである表現活動を設定
- その後、1 時間ごとのGoalを設定しました
- 各時間ごとに様々な手法が入り混じる形になりました
- **高校は 1 時間ではなく、単元レベルの大きいレベルで見るべき**
→ 1 時間の授業を見ただけでは全体像が分からない

Oral Introduction (Interaction)について

- Targetとなる文法事項を使い、教師がモデルを示す
- 生徒同士で行きたい場所や時間を話し合う→数人に話を振る
- 本文の内容を軽く説明+読んでほしいポイントを提示する

Oral Introductionは教師の腕の見せ所！

ここで生徒の本文とコミュニケーションへの意識を高める

中学校の既習語彙やキーワードに着目させる

- 新出の語彙以外にも、中学校で習ったが忘れていた単語の知識を呼び覚ますために、音読後に**Word Hunt**を行っている
(生徒には**Find These Words**という活動名にして提示)
- 新出単語にない本文を読み解く上で必要なキーワードも入れる
- 生徒から引き出した後、Flashcards DXで練習する

本文の内容確認の前に行うと、内容確認がしやすくなる
Slow Learnerの多い学校にはお勧め

訳読する場合、本文は小出しに提示する

- ワーキングメモリが低い生徒が多い場合は少しずつ本文を提示する

① At festivals and carnivals /

① At festivals and carnivals /

in European countries, /

in European countries, /

people often wear costumes /

people often wear costumes /

of animals or monsters.

of animals or monsters.

既習事項でも複数個が1文中に混ざると途端に意味が取れなくなる

本当はピックアップしてやるべきですが…

- ピックアップして確認したところ、うまくいかなかったので、全文訳に
→ワーキングメモリ（短期記憶）が低く、1文が持つ情報が増すと内容の保持×
- また、ほか教員と歩調を合わせなければならないという事情も・・・
- *All Aboard!*は1パートの文章量が少ないので、全文訳しても活動ができます
- 生徒の大多数が内容が取れると判断した場合は、神戸北高校での実践（扇園，2022）のように「内容確認シート」などで、まとめる活動をすべき

本文やTarget Sentenceの練習について

- Intakeのため、何度も音読練習 1パートで前時も含み**6回音読**
Choral Reading→**2方読み**→()の**穴あき音読**
- 「**そして誰もいなくなった**」という（少し古典的な）活動を採用
→文の単語を消していき、最後はそらんじて言えるようにする活動
→パワーポイントを使えば簡単に消えるアニメーションができます
- 発表の原稿を書くワークシートに入る前にも、この活動を行っています

英問英答 (Q & A) について

- **これらの練習活動を行ってから、英問英答を行います。**
- 私の場合、生徒を当てて答えを黒板（ホワイトボード）に書かせます



- こうすると、正解率が上がります。
- Retellingさせるときは**教科書を見ずに**英問英答させればいいでしょう。

尼工生へのScaffoldingsの設定

- リスニングと発表準備用のワークシートを準備
- 原稿のアイデアを出すため、右の発問を配置
- 書かせた後、ペアワーク
- 原稿を清書

→ 発問の答えをつなげれば、
原稿になるようにした。

この質問にまずは答えよう！

下線部を埋めて、ペアになって対話をしよう。

Q1. Where do you want to suggest? *suggest: ~を提案する

I want to suggest _____.

Q2. How long does it take to go there?

It takes us _____ to go there.

Q3. How much does it cost to go there?

It costs us _____ to go there.

Q4. What can you do there?

What we can do is to _____.

どの生徒も何とか原稿が作れたので、
今回はこれでちょうどよいものでした

Scaffoldingsは生徒のレベルに応じて設定

- 勤務する学校やクラスの生徒の実態に応じてScaffoldingsは変える

中堅高校

- Q1. Where do you want to suggest?
- Q2. How long does it take to go there?
- Q3. How much does it cost?
- Q4. What can you do there?

上位高校

- Place:
- Time:
- Cost:
- To do:

全文書かせる

視点を与えるだけ

Scaffoldingsが「甘やかし」にならないようにする
「与え方」と同時に「外し方」も意識すべき

RubricはTeamsで事前に一斉配信

- 先にRubricを見せることで、どんな発表をつくるかを確認

2年生英語コミュニケーションⅡ Lesson 1 Communication Task Rubric

評価規準：自分の旅行プランを、目的地に着くのにかかる時間や費用、そこでできることも含めてクラスメイトに提案することができる。

評価基準	思考・判断・表現 (Targetの文法事項が使えているか、Taskの達成度合いを評価)	主体的に学習に取り組む態度 (聞き手に伝わるよう努力しようとしているかを評価)	
A (3点)	かかる時間、費用、行先でできることをすべて伝えることができた。	Targetとなる文法事項をすべて使い、文法のミスなく話ができている。(ミス1つまで)	原稿を見ずにクラスメイトに向かって旅行プランを提案できた。
B (2点)	かかる時間、費用、行先でできることのいずれか2つを伝えることができた。	文法のミスが2つ以上あるが、話ができただ。 もしくはTargetとなる文法事項2つのうち、片方を使用しなかった。	原稿を1回以上見てクラスメイトに向かって旅行プランを提案できた。
C (1点)	かかる時間、費用、行先でできることのいずれか1つを伝えることができた。	文法のミスが3つ以上あるが、話ができている。 もしくはTargetとなる文法事項2つのうち、どちらも使用しなかった。	原稿を2回以上(もしくは常に)見てクラスメイトに旅行プランを提案できた。
0点	上記の内容を満たしていない。もしくは発表を行わなかった。		

PPTは簡単なテンプレートを準備

- テンプレートは、こちらで用意
- あくまでスライドは「補助」
(採点対象にはしていない)
- Microsoft Teamsの「課題」で配信し、各自で打ち込ませ準備
- 同時に接続したら、回線が切れたのでやむなく宿題に・・・

My Trip Plan	
	Place:
	Time to go there:
	Cost:
	You can
旅行先のイメージ図	

Rubric返却後のフィードバック



①よくできた生徒の発表例を見せる

→ **ビデオ撮影は必須**

→聞き洩らしや微妙なラインの判定にも使える

②Common Mistakesの確認

③期末考査で切り口を変えて、再度Writing Testとして出題

④振り返りシートを具体的に書かせる

(F/B例) Rubricのここを意識しましたか？

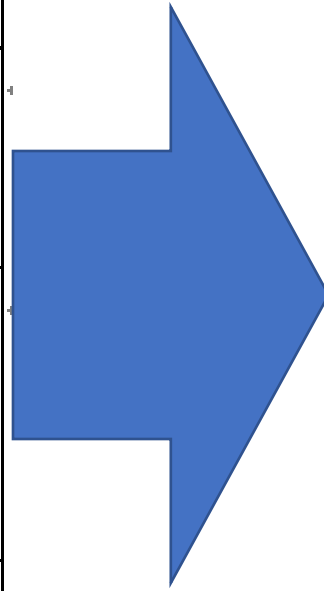
主体的に学習に取り組む態度

(聞き手に伝わるよう努力しようとしているかを評価)

原稿を見ずにクラスメイトに向かって
旅行プランを提案できた。

原稿を 1回以上 見てクラスメイトに向
かって旅行プランを提案できた。

原稿を 2回以上 (もしくは常に) 見てク
ラスメイトに旅行プランを提案できた。



原稿読みながらでは、
相手に伝わらない！

事前の練習をしたか？

(フィードバック例)

次の文には間違いがあります。何でしょう？

It take us 15 hour to go there. (ミス2つ)

It cost us 21000 to go there. (ミス2つ)

What we can do is play soccer. (ミス1つ)

発表内のCommon Mistakesは、生徒自身に気づかせる

期末考査で切り口を変え、再度Writing Testとして出題

⑤Writing Test+

「自分の家族に旅行計画を提案することになりました。」+

次の①～④の内容をそれぞれ文で盛り込み、家族旅行の計画を英語で書きなさい。+

() 内の条件を守ること」+

①提案する場所+

②そこへ行くのにかかる「時間」(Itで文を始めて。)+

③そこへ行くのにかかる「費用」(Itで文を始めて。一人分で考える。往復・片道問わない)+

④家族と一緒にやりたいことを1つ(1文で書く。what, want, with my familyを使う)+

※事前準備のメモの持ち込みはできません+

SpeakingからWriting活動へつなげる
フィードバックで得た反省点を、もう1回試させる

さらに！夏休み課題として英作文を課す

お題

夏休み中、あなたはどこに行きましたか？次の内容を盛り込んで、6文～10文程度の英語で書きなさい。（10文を超過しても構わない。書けば書くほど良い。）

- ①自分が行った場所はどこ？
- ②どうやってそこへ行った？
- ③そこへ行くのにいくらかかった？
- ④そこへ行くのに何時間かかった？
- ⑤そこで何をした？（できるだけたくさん書くこと）
- ⑥次の大型休み（冬休みなど）にやりたいことは何？
→関係代名詞のwhatを使って書こう

生徒の作品例

My Trip in the Summer Vacation in 2023

I went to My mother's Parent's house by car
 It took me seven and a half hours to go there
 It cost me about ten thousand yen to go there
 I played Hanafuda with my grandma It was fun
 What I want to do is to defeat my grandma
 My favorite roles are "five light", "boat deer butterfly",
 "A cup of moon viewing" and "A cup of cherry blossom viewing"



My Trip in the Summer Vacation in 2023

I went to Yakushima island by bus and ferry.
 It took me 16 hours to get there.
 It cost me 37000 yen to go there,
 I walked for 3 hours to get to the hut on the first day.
 On the second day, We climbed Mt. Miyahoura and saw a nice view.
 I was tired after walking for 12 hours.
 On the third day, We climbed up and down to see Jomon cedar, and
 Taiko iwa, and Shiratani Unsui kyo.
 It was so mysterious.
 This training camp had a lot of mysterious places. It was a lot of fun.
 What I want to enjoy is mountain climbing more.



My Trip in the Summer Vacation in 2023

I went to Awajishima during the summer vacation.
 I took a car that my family has.
 It cost hundreds of yen for expressway tolls.
 It took about one hour.
 I rode a boat on the river and jumped in for swimming.
 I also went to a bridge called "kasurabashi".
 The bridge was old and swayed when I walked on it, so
 I was very nervous to cross it.



展示の様子



- 作品は ラミネート加工
- 裏にマグネットシートを貼る
 - 画鋲の穴が開かない
 - 家で冷蔵庫などに貼って飾れる

Task Repetition / Iterationの大切さ

- 浦野 (2024) はタスクを1回だけで終わらさず、繰り返すことの大切さを提唱しています。

→ 同じタスクでも1回目は内容に焦点、2回目は文法の正確さに焦点が向けられるようになる。

- また、劉 (2024)は iteration を提唱しています
iteration = 切り口を変えてタスクを繰り返すこと

パフォーマンステスト、定期テスト、週末課題、長期休業課題などで
達成可能です

電源注意! ICTへの過度の依存は危険!

- 漏電などで電源が落ちればプロジェクターは使用不可
- タブレットPCも 「バッテリー切れ」 が付きまとう。
 - さらにICTのノウハウが進むと 6時間連続で使用するようになる
 - バッテリーが切れると何もできなくなる・・・
 - タブレットが壊れる場合もある



アナログ的な部分も授業に残して、切り替えられるようにしておく

Backward Planningの利点

- 各活動が有機的につながったPlanができる

→精密機械や寄木造のような「芸術的なプラン」になる



- Goalが明確化し、個人内の指導がブレなくなる

→つけたい力 (Goal) にたどり着かせやすい

Oral Introductionが生徒のタスクのモデルに

- 本文に入る前のOral Introductionは生徒に求めるアウトプットのモデルになっていました。
- Backward Planning時に「旅行プランを作らせる」としていたため、私自身の留学体験でモデルを示した
- Backward PlanningでGoalが決まっているからできた芸当です

このように単元活動を「構造化」させることが大切

Backward Planningの注意点



① 単元レベルになると、トラブルに弱い

- 時間数が短かったり、トラブルがあるとPlanが瓦解する可能性がある
→ 最悪、Goalにたどり着かないクラスが出る
- 有機的につながっているので、欠席すると取り返しがつかないことも
→ 導入する授業を休んだ／発表原稿の準備をする授業を休んだなど
→ 時間数を把握し、トラブル発生や欠席者のフォロー体制も考える

② 複数の担当者と複数クラスを持つと調整必須

- 言語活動を単元末に入れると必ず計画内容を終了させなければならない
- 他教員の進度も確認し、実施できるか、すり合わせる = 指導の一貫性

これまでの高校は . . .

- 講義中心だったので「一番遅いクラスが進んだところ」までをテスト範囲にできた
 - = ごまかしが利きやすい
- パフォーマンステストが単元末に回ると、テスト期間前にかぶりやすい
- 終了してないクラスが出ると不平等になる
 - = ごまかしが利かなくなった

「芸術的な」プランも全員が実行できなければ意味がない

今後の自分の授業の改善点や課題

- Scaffoldingsを引きすぎた感があり、FonFs（明示的な文法教授を行うこと）寄りになった。
→次の単元以降、Scaffoldingsの外し方をもう少し工夫したい
- Try out → 中間指導 → 言語活動 のような 「活動の構造化」 を図る。
→今年度の論理表現はこれを意識しました。来年以降、発表します

そのほか、お気づきの点がございましたら、
質疑の際にご指摘いただけますとありがたいです。

まとめ：職業系高校は「ブルーオーシャン」

- 生活言語能力 (BICS)寄りの事項を教師が選択することができる
= 網羅主義に陥らない
- カタカナ語から連想しやすい単語や中1・中2レベルの単語や習った単語を使えば、授業内でかなりの英語を生徒も教師も使用することができる
= やさしめだがTBLTやCLTが可能！
- 英語力はつかない生徒もいるかもしれないが、人前で自分の考えを発表したり、話し合ったりする能力を鍛えることは大切

就職活動の面接や、将来の仕事に直結している！

最後に・・・職業系高校の英語教師として

Slow Learnerや「発達に特性のある生徒」ばかりだからと、自己表現活動をあきらめる必要はありません。

むしろ、そういった生徒にこそ、英語を使うことを通して英語を身につけるプロセスを体感させ、生徒に達成感を与えて喜んでもらうのが肝要ではないでしょうか？

educate（教育する）の語源は

ラテン語の*educare*（＝引き出す）

小なりといえど、生徒の可能性を引き出すのが教師の役目

職業系高校の現場からは以上です！
ご清聴、ありがとうございました
後半もお楽しみに！



参考文献（日本語）

- 浦野研（2024）*"The task is not the end: the role of repetition and sequencing in language teaching"* 奈良教育大学英語教育研究会2024年12月の会
- 扇菌尚孝（2022）『Retellingへ導く4技能統合授業の試み POWERON III Lesson 11 "The 10,000-Hour Rule"の実践』令和4年度英語授業研究学会関西支部春季研究大会
- 扇菌尚孝（2023）『指導の一貫性の重要性とその諸問題』令和4年度英語授業研究学会2月例会
- 劉崇治（2024）『Iterationが生徒たちの学習にどのように影響を与えるか—文法指導と雑談指導（中1）—』令和6年度英語授業研究学会関西支部7月例会
- 山岡俊比古（1997）『第2言語習得研究』（新装改訂版）桐原ユニ